

本多 裕先生の訃報に接して

日本睡眠学会の名誉会員 本多 裕先生は病氣療養中のところ、2009年9月1日に永眠されました。

本多先生は、東京大学医学部卒業後に同大学精神医学教室にて、精神医学・医療の研修を受けられるとともに、早くより睡眠障害とりわけ周期性傾眠証（間脳症）やナルコレプシーの研究に取り組みられました。ナルコレプシーについての研究は本多先生のライフ・ワークであり、その方面で数多くの優れた研究論文を発表されただけでなく、全てのナルコレプシー患者では特に HLADR2 陽性であることを発見されたことは、国際的にも大きな注目を浴び優れた研究でありました。

本多先生はナルコレプシーに関する医学的研究を精力的に行われただけでなく、ナルコレプシー患者が相互に援助・協力するとともに、社会的な QOL の向上を計ることを目的とする患者会「ナルコ会」を組織し、その運営にも協力して来られました。本多先生が育てられた患者会がモデルとなり、先進諸国でもナルコレプシーの患者会が組織され、ナルコレプシー患者の社会的 QOL の改善が計られるようになりました。

本多先生は長年にわたり本学会の理事として、本学会の運営・発展に尽力されました。特に、睡眠障害の診断基準に関する委員会を組織され、その委員長として活躍されました。その面での特筆すべき業績は、本多先生が中心となって睡眠障害の国際的診断基準 ICSD の日本語版を翻訳・出版にこぎつけられたことであります。

ここに、本多 裕名誉会員の長年にわたる本学会発展のためにご活躍されたことを偲びつつ、本多 裕先生のご冥福をお祈り申し上げます。

2009年9月3日

日本睡眠学会名誉会員

秋田大学名誉教授

秋田回生会病院名誉院長

菱川 泰夫